Project	地域教育専攻
40	**特別なニーズのある子どもの余暇支援プロジェクト(2022)**
メンバー	[学　　生] 鈴木　寛奈 / 佐々木　紅理 / 落合　杏香 / 阿達　莉那 / 高橋　こころ / 玉木　音 / 横山麗奈 / 酒井　はるか / 菊池　利菜
	[担当教員] 細谷　一博

【背景】

障害のある人たちの余暇の過ごし方がマスメディア中心となっていることや、選択できる余暇の種類が少ないことから、充実した余暇の過ごし方ができるように遊び・スポーツの場所を提供することが求められている。そこで、本プロジェクトでは、障害のある人たちの余暇支援のため、スペシャルオリンピックス（SO）の場を提供した。

【目的】

スペシャルオリンピックスの活動を通して、障害のある人たちの余暇活動の支援や運動できる場の用意をし、楽しんで体を動かしてもらう。

【概要】

4月から12月までの間、バスケットボールプログラムとヤングアスリートプログラムの2グループに分かれ、スペシャルオリンピックスの企画・運営を行い、実際にアスリートたちと交流した。

【プロセスと成果】

スペシャルオリンピックスについて学習し、バスケットボールプログラムとヤングアスリートプログラムに分かれ、一年を通して実際 にスペシャルオリンピックスの企画・運営を行った。

【バスケットボール・成果】 障害の程度に合わせ、参加者全員ができることから始め、徐々に難しい運動を実施していくスモールステップを意識しながら、アスリートたちが楽しんでバスケットボールをできるような活動を作成し、取り組んだ。

【ヤングアスリート・成果】 スペシャルオリンピックスの内容をもとに、全ての子どもたちが遊びに参加できるような活動を企画し、実行した。

＜実際の活動の様子＞

①バスケット：
ドリブルをしているアスリートの様子

②ヤングアスリート：
エビカニクスダンスをする児童の様子

【総括と反省・今後の課題】

バスケットボールプログラム

【反省】

・視覚的な支援、特に色に関する配慮が不十分であった。また、アスリートが意欲的に取り組むことができる工夫を活動に取り入れることが少なかった。

・アスリートと学生ボランティア、またはアスリート同士が協力して達成できる活動を積極的に取り入れた結果、学生ボランティアとアスリートが楽しんで活動に参加している様子を見ることができた。

【課題】

・アスリートの成功体験を増やすために、トップダウンを意識した活動計画を立てたり、アスリートの障害の程度に合わせてレベル別にコース等を設定する必要がある。

ヤングアスリートプログラム

【反省】

・前期の活動と比較して、活動の説明をイラストで示したり実際に学生が見本を見せたりするなど視覚的にルールや内容を表す事ができた。

・学生が活動に参加するように促すことが多かったが、友達と協力が必要な遊び（爆弾ゲームや大縄）を実施したことで自ら他の友達とコミュニケーションをとり、積極的に遊びに参加する様子が見られ、効果的なプロジェクトが実施出来た。

【課題】

・今後の課題として、他者とのコミュニケーションスキルを身につけさせるために、子どもたちが活動する際、必然的に協力する状況・ルールの設定を行うことが必要だと考える。

【地域からの評価】

本活動における連携先（スペシャルオリンピックス日本・北海道）が札幌市にあるため、実際の活動の様子を見ていただくことはできなかった。その為、連携先からの評価を得ることはできなかった。

【年間スケジュール】

■前期

4月13日 「全体ガイダンス」
4月20日 「講話『函館市の教育の現状』」
4月24日 SO①
4月27日～7月20日 「企画会議」
5月15日 SO②
5月29日 SO③
6月12日 SO④
6月26日 SO⑤
7月10日 SO⑥
7月24日 SO⑦
7月27日 「まとめ」

■後期

10月 5日 「全体ガイダンス」
10月12日～12月7日「企画会議」
10月16日 SO①
11月13日 SO②
12月11日 SO③
1月11日 「振りかえり」
1月18・25日 「成果発表会/報告書の資料作成」
1月28日 「成果発表会」